

織田四天王の運命と福井

ふくい歴史がわら版

柴田勝家

福井市の基礎を築いた筆頭家臣

出生や生い立ちは定かではないが、弘治2（1556）年、信長と家督争いをしていた弟・信行の家臣として歴史上に登場。信行の擁立は失敗に終わるが、その後信長の家臣となると、桶狭間の戦いをはじめ数々の戦で戦功を挙げ、信



柴田勝家（柴田勝次郎氏蔵／福井市立郷土歴史博物館保管）
？～天正11（1583）年
「鬼柴田」「瓶割り柴田」などの異名を持つ豪腕の武将。もとは信長の実弟・信行の家臣だったが、一度は刃を向けた信長の忠実な重臣となる。正室は信長の妹・お市の方。

長躍進の原動力となっていた。

こうした功績が認められ、天正3（1575）年、北陸の最重要拠点であった越前統治を命じられる。越前に入った勝家は、豪

壮な造りの北庄城を築き、町づくりに着手。日本初の「刀狩り（刀

さらえ）」を実施し、武器を農具に作り変

えることで農村を復興させたり、絹織物

や越前和紙の振興に

力を入れるなどの善

政を行った。

ところが、天正10（1582）年の本能寺の

変で信長が討たれると、後継者を選ぶ清洲会

議で羽柴（豊臣）秀吉と対立。翌年に勃発し

た賤ヶ岳の戦いで秀吉軍に敗れると、妻・

お市の方とともに北

庄城で自害した。

名将・織田信長の祖先は、越前織田の荘官、劔神社の神官を務めており、信長と福井は深い縁で結ばれている。さらに、その家臣で「織田四天王」と呼ばれた重臣たちもまた、ここ福井の地と関わりのあったことが明らかになった。

滝川一益

僧侶となり越前へ

近江甲賀出身で、わずかに十数人の足輕を率いる小隊長であったが、伊勢地方攻略などで頭角を現すと、長篠の戦いでは敗走した敵将・武田勝頼を討ちとり、関東管領の地位に上りつめた。

ところが、賤ヶ岳の戦いでは柴田勝家軍に属していたため秀吉に降伏。その後、

明智光秀

一乗谷での生活を経て重臣へ

美濃出身の光秀は、浪人中の永禄5（1562）年に称念寺（現坂井市丸岡町）を訪れ、門前に寺子屋を建てて生活していた。その後、朝倉義景の招きにより一乗谷で暮らした光秀は、足利義昭の上洛に従ったことで信長と出会い、家臣となる。

上洛後の永禄12（1569）年には長秀や



霊泉寺（越前市池泉町）にある一益を偲ぶ碑
大永5（1525）年～天正14（1586）年
武功によって下級武士から出世。伊勢平野一帯を統治し、経済力を背景に活躍した。賤ヶ岳の戦いの後、大野城主となる。



明智光秀（本徳寺蔵）
？～天正10（1582）年
諸国を遍歴して兵学を学び朝倉義景に仕え、その後信長の家臣となる。石山本願寺攻めなどに尽力し勝家らと並び重臣となったが、本能寺の変で主君・信長を討つ。



光秀の邸宅跡にある明智神社（福井市東大味町）。娘・細川ガラシャもここで生まれたと伝えられている



神社敷地内にある光秀の墓



敷地内には光秀ゆかりの資料が展示された東大味歴史資料館がある

こぼれ話

羽柴秀吉の由来

「木下」姓だった秀吉は、当時織田家の双壁だった柴田勝家と丹羽長秀2人の名を取った「羽柴」の姓を信長に申請し、認められた。これを機に長秀は秀吉に好意を持ったとも言われる。

こぼれ話

信長・秀吉に愛された堀秀政

信長の側近として寵愛を受けた堀秀政は、元は秀吉の家来。丹羽家の後を受け、6年間北庄城主として越前を治めた。自分の愚口が書かれた立て札を家の宝として内容を吟味改善したというエピソードも。秀政の墓は、長慶寺（ちようけいじ・福井市西木田）に残っている。

丹羽長秀

越前・若狭両国を統治

尾張国に生まれた長秀は、信長がまだ尾張一國統治であった頃から重臣。永禄11（1568）年に信長が足利義昭を奉じて上洛した際には、これに従い、敵将・六角氏の箕作城を攻略。天正元（1573）年の刀禰坂の戦いで



丹羽長秀（顯本寺蔵）

天文4（1535）年～
天正13（1585）年
15歳から信長に仕え、信長の養女を妻とした。ほとんどの戦に動員されるなど信長の信頼は厚く、また安土城築城に際して総奉行を務めるなど、軍事・政治両面で活躍。



総光寺（福井市つくも）にある長秀の墓